

## もっとよくなるために必要な気持ち 「ナイスキャッチ」

### 授業のポイント

#### 思いや願いを豊かに表現できる子の育成を目指して

『ケンカをしたくない。もっと仲良くしたい。』という切実な問題意識をもとに学習の総合化を図り、本時の学習で内面的な見方や考え方を知ることによって、道徳的価値の自覚を深め、道徳的实践力を育成できるようにしたい。

### 授業改善に向けての考察

#### 優しさ表現する力、心情を育てるために

#### 子どもの問題意識を元に構成した単元と学習の総合化について

本時の授業前に、学級活動や日常生活、道徳の時間との総合化を図り計画したことにより、子どもたちが自分ごととしてより深く問題について考え、解決したいという思いを高めることができた。

#### 資料の価値を生かした授業づくりの改善点

- ・子どもたちが生活の中で感じている一番の問題は、「仲がいいけれど、ケンカをしてしまう。」ということである。
- ・児童指導や、調査の結果、トラブルやケンカの発端となる要因として、主に「言葉」の問題が挙げられる。

- ・資料のナイス・キャッチの主人公「ぼく」の言葉から、「ぼく」の気持ちの変化を話し合いの焦点とすることで、「ぼく」の姿と自分のすがたを重ね合わせようとする子の様子が見られた。
- ・資料「ナイス・キャッチ」は、現在の子どもの現状に合ったものだと考えられる。
- ・しかし、登場人物の心情を想像し、「ぼく」の気持ちの変化を話し合う、という学習の流れで進めたことによって、本資料の価値が限定されてしまった。
- ・副キャプテンの「ぼく」の立場（試合に勝ちたい、副キャプテンだからしっかりしないとなどといった、立場を考えること）や、「ひろしくん」が「けんたくん」にかけた言葉（肯定的な言葉かけ）などについての話し合いの時間をもっと確保すべきであったと考える。

#### 今後の展開～明るく、楽しく、優しい3年生を目指して～

子どもたちの様子を見てみると、まだ「言葉」によるトラブルは後を絶たないものの、「そんなに言わなくてもいいじゃない。」「もっとA君の気持ちを考えてあげてよ。」といった声が出てきた。意見を賞賛したり、認めたりする様子もよく見られるようになってきている。やさしさ表現しようとする心が育ち始めた今、今度は、それを表現するための『言葉のスキル』を高めることができる学習を計画し、実践していきたいと考えている。